

花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドキドキ冒険記2

国立市立国立第七小学校

平成27年1月23日 NO.77 (177)

オー君 「モンタ博士、この前の冬芽のお話のつづきは、
どうなっちゃんですか。」

モンタ博士「そうだったね。それでは、あちこちでとってきた
いろいろな冬芽を紹介しよう。」

オー君 「よーし！いろいろな冬芽ウオッチングだ！」

モンタ博士「まず、右のサワシバという木を見てごらん。」

オー君 「初めて聞く名前の木だけど…。花ちゃん、
知ってる？」

花ちゃん 「うーん。私も初めて聞くわ。」

オー君 「あっ！このサワシバの冬芽は、何枚も
皮がついているだけじゃなくて、
毛もあるぞ。」

花ちゃん 「ほんとうだ。毛が少しついているわ。」

オー君 「こりゃ、あったかいだろうな。」

花ちゃん 「そうね、きっとポカポカで、あったかそう
だわ。こんな日はあたたかな毛糸のマフラー
が一番ね。マフラーみたいに冬芽が全部
あったかい毛におおわれている木は、
ないのかしら。」

モンタ博士「コブシという木が学校のうらにあるよ。
冬芽のまわりはもじゃもじゃとした毛だよ。
校長室前にもおいてあるよ。モクレン
という木もよくにている感じだよ。」

オー君 「これだけ毛があれば、きっと、



サワシバ (カバノキ科)



コブシ (モクレン科)

さむ ふゆ
寒い冬ものりこえられるだろうな。」

花ちゃん 「モンタ博士、右の冬芽はとっても
おお
大きいよ。なんだろうな。」

モンタ博士 「とても大きな葉っぱなんだ。
それがヒントだよ。さて、何かわかる？」

オー君 「ほおー……。なんだったっけかな。」

モンタ博士 「もう、わかったね。いま、言ったね。」

オー君 「え？いま、言った？あ！わかった。
ホオノキだ。でっかい葉っぱだから、
ぼく覚えているんだ。この葉っぱは
ひこうき
飛行機にもなるんだよね。」

モンタ博士 「そのとおりだね。こんど、みんなに
ひこうき つく かた おし
飛行機の作り方を教えてあげるね。」

花ちゃん 「このホオノキの冬芽って、革の
き
ジャンバーを着たみたいですね。」

オー君 「そうだね。エンピツのサックみたいに
み
も見えるね。」

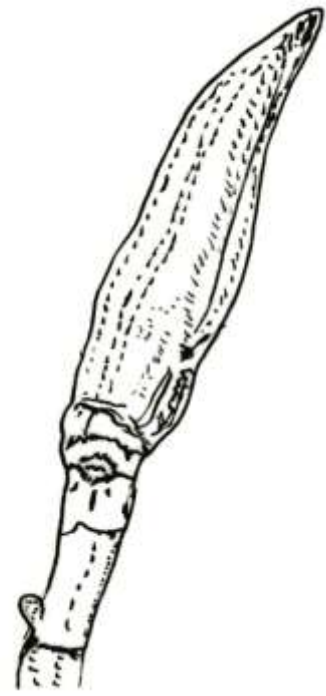
モンタ博士 「大きな皮でまわりを全部つつんでいる
みたいだね。いろいろな冬芽があって、
おもしろいね。あ！あそこにつるしよくぶつ
植物
のマタタビがあるよ。見てごらん。」

オー君 「マタタビって、あのネコが大好きなものですね。」

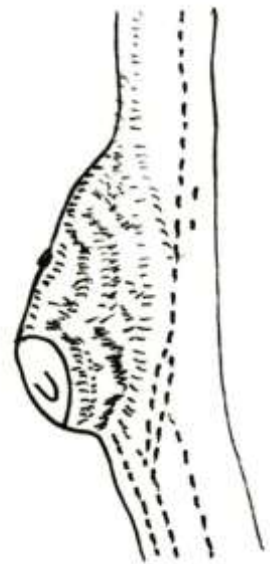
モンタ博士 「ほほー。オー君よく覚えていたね。えらいね。」

花ちゃん 「うわー。オー君見て。この冬芽は頭をひっこ
めているみたいでかわいいわ。きっとさむ
さむ
頭が出せないんだ。」

オー君 「なるほど。それだけ、寒さがきびしいということなんだ。」



ホオノキ(モクレン科)



マタタビ(マタタビ科)